

【図画工作科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

- 興味・関心をもって、材料や用具、題材と向き合い、造形活動に進んで取り組もうとしている。
- 材料の特徴やテーマを基に、表したいことを豊かに発想し、材料を選び、材料の使い方を試しながら工夫して表すことができるようになってきている。
- △材料を効果的に活用する力など、想像力や構想力に課題がある。

2 学習状況の分析と課題

	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な能力	鑑賞の能力
学習状況の分析	各自作品に主体的に取り組み、より考えを深め、豊かに想像を広げて自分らしく表現しようとする意欲は、更に高まった。	表したいことに沿って材料を選び、材料や用具を生かし試しながら発想を豊かに広げていく力が向上している。	用具を安全に適切に使うことや、自分なりのイメージをもって、色や形を考えて表す力は、向上してきた。	自他の作品に興味をもち、楽しさやよさ、面白さを考えたり、感じ取ったりすることができている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が材料や作品と向き合い、材料を生かした表現と鑑賞を繰り返しながら、納得いく作品に仕上げるのが課題。 ・自分の表したいことを下絵にしたり、材料を選択したりする場面で、作業が思い悩んで進まない児童がいる。構想力や考えを深めることが課題である。 ・客観的に見た面白さや美しさ、使用した時の丈夫さも含め、一層よい作品に高める創造的技術の向上に課題がある。 ・鑑賞活動では、思いの言語化が苦手な児童や、同じような見方に偏っている児童が見受けられるのが課題である。 			

3 授業の具体的な改善策

目標	<p>新学習指導要領の教科の目標</p> <p>表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。</p>
全体	<p>主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が、生活体験や思い、学校生活で学んだことを作品の表現に生かしたり結び付けたりしやすい題材を設定する。 ・作業手順は板書で短文や図で明記し、どの児童も見通しを持って製作活動に取り組めるようにする。 ・活動中は作品との対話を大切に、各自集中して活動させ、途中で気付きを共有する学び合いの時間を確保する。 ・授業終わりに振り返りとクラスでのまとめを行い、最終的に各自が学びを深められるようにする。
学年段階別改善策	
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時、表したいことを発言させる。 ・用具の安全面について学級全体で確認する際は、発問して考えさせ、提示することで印象付ける。 ・作品例を見せたり実演指導したりして、活動のイメージをもたせやすくする。 ・児童の主体的な活動や表現の工夫、成長に対し、価値付けとなる声掛けを行い、学級や学年で共有する。 ・自他の作品を見て、よさや面白さを見付けて楽しんだり、言葉で表したりする時間を確保する。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・強い興味や関心、または必要感をもって題材に取り組めるように、題材設定を工夫するとともに、使用する材料の材質や大きさを十分検討する。 ・アイディアスケッチを基にした表現活動がより豊かに深まったり広がったりするよう、材料の特徴をじっくり確認したり試したり、学級で共有する時間を確保する。 ・用具の基本的な扱い方や活用を、発問や掲示物で示し、共有して、基本的技能の習得を図る。 ・各作品で活動途中や完成後に、作品の鑑賞会の時間を設け、ワークシートに『どう感じたか』『理由は』『よく見ると…。』など、視点を変えて言葉で書かせ、学級で共有し、教員が価値付けをする。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・針金・紙粘土・木材・和紙・光などの材料を、既習事項を生かして、生活や思い、身近な芸術と結び付けながら表現できるような題材を設定し、用途や美しさを考えさせながら取り組ませる。 ・色彩や色の濃淡の効果、奥行き、受ける印象などを考えながら、材料や技法の組み合わせ方を工夫させることによって、児童の作品により深みをもたせ、児童の自信につなげるようにする。 ・既習事項を組み合わせながら、表現と鑑賞を繰り返す活動を通して、一層よりよい作品に高めるようにする。児童の疑問は全体で共有し、解決策を全体で考えたり、他の材料で試させたりする。 ・自他の作品、親しみのある作品のよさや美しさを、多角的視点で理由を含めて詳しく言葉で表現させる。